

和歌山県民の手柄にせんといけません

今、和歌山で地域活性プロジェクトの座長しています。こないだは和歌山県庁に行っているいる提案さしても

らって、どういうボールが帰って来るかと、思っていました。えらく反応がよくて、すぐに次の会合が決まりました。

和歌山は、もっとなつて行くと思います。

なぜこのプロジェクトに参画したかといいますと、口だけやなしに、ご縁のある和歌山を元気にして見せましよう、と思っただからです。

いつも、僕は大阪が活気の出るようにと、考えて動いています。大阪は、人口約八八二万人おります。これに対して、和歌山は約九四万人です。九四万人には九四万人ならではの夢のあるやり方がある、と想着てます。

和歌山県内を見ると、いい財産をたくさんもっています。神社仏閣はもとより、林業しかり、海の幸しかり、そしてフルーツは、イチゴ、モモ、ミカン、ウメ、カキ等など。それだけ歴史や庶民の生きる知恵があった、ということなんです。

残念なことに、新型コロナウイルスでは、県内で早くから感染があり、知事さんの会見が大きく取り上げられましたけど、この際は、和歌山の知名度が上がったのを、なんとかプラスにするようにすれば、と思っています。

このプロジェクトは、和歌山の人が発信するということができてます。和歌山県民の手柄にせんといけません。

いろいろ経験すると人間は勝手に育ちますわ

これまで地域創生や地域おこしと言えば、東京のシンクタンクなんかプラン立てて、地方を東京ナイズするようなことが多かったように思えます。

そうやなしに、和歌山は和歌山独自の良さをPRする。いろんなツールを使って地元から発信することが大事だと思います。



●朝日新聞 (大阪本社) 2月21日



◎(株)アオキ取締役会長

青木 豊彦

(あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

そのためには、地元の若い人ががんばってもらわんとあきません。若いうちに、いろいろ経験すると、人間は勝手に育つので、若い人にもええ機会になると思ってます。

そういうところでは、七〇歳おじいちゃん——つまり僕のことですけど——は、おじいちゃんの役やらんといけません。会議でもなごやかに進める役に徹して、三〇代、四〇代の人が動きやすいようにするのが僕の役目です。

僕が講演するようになったのは、東大阪市を元気にしたい、と思ったのがきっかけです。

そやけど、最初、人前でマイク持ったときはこわくて震えてました。誰に習ったわけやないけど、そういう経験を積んでいたとき、ああ、僕ってこういうことせんとあかんのや、というある種の使命感に目覚めたんです。

使命感を持つと自分を捨てられます。プライドを捨てられるんです。はずかしいと思うようなことでも、地域のためならやっつけていかな、という気持ちになりました。

ある程度、仕事に慣れてしまった人は、プライドが先に立って、会議でもあまり発言しません。そして発言するのは、建前ばかり。そやから自分の体験、経験以外のこと言うとメッキが剥げます。

前にも触れましたけど、僕の講演は、自分が経験した人工衛星「まいど1号」の打ち上げに関するものです。

ベテランの歌手が、一回ヒットした歌を、ずっと歌うてるように、同じ内容の講演やってて、そんなことでええんかいな、と思うたこともありました。

知り合いのアナウンサーで、講演ははじめたところ聞いてくれた人がいます。この人に五、六年前、もう一回、僕の講演を聞いてもらうたことがありました。

そしたら「青木さん。青木さんの話は古典落語ですよ。みなさん、それを聴きたいんですよ。だから気にせず、堂々と日本中歩いて話さない。日本中を元気にすることが青木さんの役目ですよ」と言われました。

そういうわけで、みなさんに励まされ、今も全国を歩いては、「まいど1号」の嘶をしています。

処理水の問題を中小企業で解決に協力できないか考えてます

さて、人工衛星の嘶をしつつ、大阪ばかりでなく、和歌山の地域おこしにも取り組んでいることを、今回はお知らせしましたが、僕は他にも、いろんなこと考えてます。この「原子力文化」に関係することもあります。

福島第一原子力発電所の処理水の問題がそうです。現在、トリチウムというものを含んだ処理水を、どう始末するかが議論になってます。安全性を確認した上で、海に放出するか蒸発させてしまったらどうか、などいろんな意見があります。

いずれも風評被害をどう抑えるか、がポイントになってます。これに大阪の中小企業の力を合わせて、解決に協力できないかと、今、考えてます。

言わば「まいど1号」の原子力版ですか。まずは、とっかかり始めたというご報告です。